

博物館だより

No.137



平成30年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆講座教室催し物ガイド ①文化遺産ボランティア 養成講座(第3期)受講生募集!

博物館では、町の文化遺産の保護・活用の取り組みにさまざまな形で参加・支援するボランティアを養成する講座を行っています。

関心とやる気があれば、町外や今期からの参加もOK。あなたも「町のお宝の魅力」をアピール&ガードする取組みに参加しませんか!

★申込み・お問合せ先
博物館 ☎33-4666



▲参考:第2期講座の様子。この時は実際のガイドの様子を見学しました。

②「博物館友の会」で 春から「一緒に」学習“を!!

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイクなど、さまざまなイベントや学習会を行っています。

関心のある方ならどなたでも参加いただけます。お気軽にお申込みを!

♪入会の方法

博物館窓口で登録・会費納入

♪年間会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

♪お問合せ先

みやこ町歴史民俗博物館内
友の会事務局 ☎33-4666

③歴史を学ぼう!文化に触れよう! 歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。

受講を希望される方は、お気軽に博物館までお問合せください(継続して受講を希望される方の申込みについては不要です)。

なお、各講座では毎回、資料代として200円が必要となりますので、ご了承ください。

講座の内容

○講師 宮原 加代子 先生

○内容 わが国最古の漢詩集「横風藻」をはじめ日本漢詩を鑑賞します。あわせて漢詩の基礎も学習しますので、漢詩に興味をお持ちの方の参加を歓迎します。辞書・筆記用具をご持参ください。

○実施日 毎月第一土曜日
午前9時30分～

○講師 宮原 加代子 先生

○内容 室町時代の文人武將今川了俊の紀行文「道ゆきぶり」を鑑賞し、文中の和歌を万葉かなで手ならい、学習します。初めての方も歓迎です。筆記用具・用紙などをご持参ください。

○実施日 毎月第二土曜日
午前9時30分～

○講師 外部講師

○内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解説します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

○実施日 毎月第二土曜日
午前10時00分～

○講師 当館学芸員

○内容 「みやこ町と周辺地域の歴史と文化探訪」をテーマに、さまざまな切り口で関連学習を進めます。テーマにちなみ講義はもちろん、実際に現地(遺跡やゆかりの地など)を歩き見られる体験型学習も行います。

○実施日 毎月第四土曜日
午前10時00分～

*見学会は開催の都度、連絡します。



▲参考:みやこ学講座における現地見学会の様子。現場・現物からの発見・着想を大切にします。

4月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
4月7日(土) 9時30分～

【古文書講座】
4月8日(日) 10時00分～

【古典かな講座】
4月21日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】
4月28日(土) 10時00分～

※日程等、変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

2月の業務日誌から



25日(日)、豊前国分寺跡公園で「第12回三重塔まつり」が開催され、多くの皆さんに会場いただきました。当日は少年少女俳句大会の表彰式も行われ、1万以上の応募句から入賞した皆さんが表彰されました。ご応募・ご来場いただいた皆さん、有難うございました!

一少年少女俳句大会 特選句紹介

きたかぜの空であばれるほくのたこ
与原小学校一年 藤木海聡
くつひもを結ぶあいたも雪つがて
泉小学校四年 西 莉那
雲海が黄金になる(来光
与原小学校六年 原田凌空
有明の夕日をまたく奴風
泉中学校一年 築城奏子
すり足で冷たい床を初稽古
育徳館中学校一年 内山諒弥
鹿の鳴く雪ふる山や銃も鳴る
豊津中学校三年 神川朝日

みやこの歴史発見伝 105

福岡県指定史跡 彦徳甲塚古墳

— 二重の周溝を持つ豪族の墓 —

巨大古墳が築かれる甲塚地区

豊津丘陵北部の甲塚地区は、古墳時代の六世紀に京都平野南部を治めていた地方豪族の墓地となっていました。彦徳甲塚古墳をはじめ、八景山交差点付近には甲塚方墳（町指定史跡）もあり、同墳は墳丘の規模が四六×三六m程ある九州最大級の方墳です。なお両墳の間には直径二〇m前後の円墳が六基あるほか、現在は失われた小古墳も数多くあったものと思われまます。

彦徳甲塚古墳

彦徳甲塚古墳は、墳丘の直径が約二九mの円墳で、甲塚地区では二番目の規模ながら、この古墳群の「顔」といってよい装いの古墳です。県内でも珍しい二重の周溝があることから、昭和五六年には県の史跡に指定されました。

墳丘は二段積みで高さが南側で約八m、周囲にめぐらせた二重の周溝を掘削して得た土を利用して作られたと考えられています。二重の周溝のうち、内側のものは幅五〜八mで、深さは一・五〜二・一m、直径は四〇〜四二m。外側のものは幅三〜五mで、深さ〇・六〜〇・七mほどです。周溝をふくめた古



▲彦徳甲塚古墳の墳丘(左)と周溝(右)
成人男性の様子から周溝(内側)の規模が分りますが、周溝はもう一週り外側にもあります

墳全体の大きさは直径約五六mにもなり、圧倒的な規模を誇ります。なお、古墳が造られた年代については、遺物が見つかっていない上、発掘調査も行われていないことから正確なところは分っていないませんが、外形の特徴や周辺の古墳の例から見て、六世紀後半ごろと考えられています。

当古墳はその外観が、兜を置いた形を連想させることから、「甲塚」の地名の由来とも言われてきましたが、昭和五九年、宅地造成のため破壊されそうになりました。しかし、民間有志の奔走で工事は中止され、最悪の事態は免れました。その後、こうした事態の再発防止に、一帯が公有地化されると共に、地内を史跡公園として整備することが決まり、古墳は「憩いと学びの場」に再生され現在に至ります。

博物館おすすめの逸品レポート

Vol.23

この展示(& 収蔵資料)ココが見どころ、ココがツボ!!



●資料名

金銅十一面観音懸仏 (蔵持山神社所蔵)

●データファイル

法 量：直径37.5cm
製作年代：宝治元(1247)年
ポイント：県下2例の貴重な在銘懸仏



▲この懸仏は、英彦山修験の一翼を担うミニ靈山として栄えた蔵持山に伝存し、山内伽藍の一つ白山社の尊像として祀られていました。

▼蔵持山は、英彦山六峰の一つに数えられる靈山で、千年以上の歴史を誇ります。山内にはその歴史にふさわしい数々の遺跡が残されています。



memo

この懸仏は、径37.5cmの銅製鏡板の中央に総高23cmの銅製十一面観音坐像を懸け、坐像は唐草透彫りの光背を持ち蓮台を欠いています。左膝脇には花瓶があるものの右花瓶は欠失し、鏡板外周は覆輪をまわし上方に二個の吊環座がついています。鏡板背面に「宝治元年四月日草部国宗」の蹴彫籠字の銘があり檀那や工人名と考えられています。

明治の神仏分離の際、焼却されそうになり山外に持ち出されましたが、戦後再奉納されたという経緯もっています。この時期の懸仏は県内でも彦山権現御正体(英彦山神宮蔵/建久年間[1190~1198年])のほか類例がなく、北部九州の修験文化の遺宝として貴重なものです。

そのため、昭和56年に福岡県の有形文化財(工芸)に指定されました。

この金銅十一面観音懸仏に興味を持たれた方、じっくりご覧になりたいという方は博物館の常設展示に、ぜひ足をお運びください。

なお『みやこ町デジタルミュージアム』のサイドメニュー「みやこ町文化遺産」を利用すると、ご自宅のパソコンやスマートフォンで懸仏の3D映像を間近でご覧いただけます。こちらもぜひお試しください。